令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【土合中学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況は進んでいるものの、一部生徒の習得が進んでいない様子が見られる <指導上の課題> 習熟度の差が大きいため、全体指導の中で、知識の定着を図る時間を取ることが困難である。	⇒	「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【各単元毎の実施】。その際、生徒の学習履歴を確認し、教師から生徒にフィードバックを行う。その上で個別に学習計画の立案・改善をさせる【月に1度の実施】。 日々の授業の振り返りを設定し、生徒の習熟度を確認させる。また、習熟度別の課題を用意し、生徒が主体的に課題に取り組む場を設定していく【毎時間設定】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 知識等を活用し、試行錯誤することに苦手意識があり、自信がもてない生徒が少なくない。 <指導上の課題> 生徒が自己表現する過程を教師が十分に評価する時間を確保することができていない。	⇒	生徒が作品・レポート等に取り組む際、評価の観点を示し、生徒が思考したプロセスにコメントを付記して、評価する【毎回実施】。 活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】。

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において特に情報との関係の理解や文の成分の順序や照応についての理解に課題が見られた。他者の発言の意図や、文の中の語句の位置を直した意図をくみ取ることが出来ておらず文脈を読み取ることが苦手な傾向にあると考えられる。 数学では「図形」において特に角の性質についての理解に課題が見られた。また、「データの活用」の分野においても四分位範囲についての理解が足りず、解答をするために必要な知識が身についていないと考えられる。 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」における肯定的な回答は87%であった。生徒主体の学びとなるような授業を今後も展開していく。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」において特に文章と図とを結びつけて、内容を解釈することに課題が見られた。無解答率は低いが、それゆえに誤った解釈や要約をしてしまっており、与えられた情報を正しく理解できていない傾向にあると考えられる。 数学では「図形」「関数」「データの活用」の分野において特に数学的に説明したり証明したりすることに課題が見られた。また、記述式であり無解答率が高いことからも、筋道を立てて説明を行う経験が少ないことが伺える。 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」における、肯定的な回答の割合は92%であることからも、協働的な学びの機会を適宜確保しながら、読解力や論理的な説明が身に付く活動を重視したい。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【各単元毎の実施】。その際、生徒の学習履歴を確認し、教師から生徒にフィードバックを行うことができている。	変更なし
思考・判断・表現	B	活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるよう授業展開を行うことができている。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語においては課題とされていた「言葉の特徴や使い方に関する事項」で文脈に即して漢字を使ったり、主語・述語の関係について理解できている部分が多く見られた。その一方で敬語の働きや文語のきまりに関する問題では正答率が低いだけでなく、無回答率も高い傾向にあり改善する手立てを講じる必要があると考えられる。 今回の数学では方程式や正負の数といった基本的な計算問題であっても自校の正答率が50%前後にとどまっている様子が見られた。それに伴ってなのか課題として挙がっている関数に関する問題でも正答率が低い傾向にあり、基礎の定着に力を入れるべきであると考えられる。
思考・判断・表現	思考・判断・表現については学年問わず、一部の教科を除いて無回答率は少ない傾向にあった。しかし、無回答になっている問題の正答率は50%を下回るものも多く、上記知識・技能の結果を鑑みると、間違った知識をもとに思考をした結果、正答にたどり着かなかった可能性も考えられる。思考・判断ができるようになるような手立てを考えるとともに、問題に取り組む際に必要な知識を十分に有していたかを確かめる必要性も考えられる。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価（※）	
知識・技能	B	生徒の学習履歴を確認し、教師から生徒にフィードバックを行い、その上で個別に学習計画の立案・改善をさせることまではできなかったが、「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む事ができた。数学に関しては計算能力がまだ身についていない部分が見られるものの、国語においては漢字を文脈に即した形で使用することができる生徒が多くなった。
思考・判断・表現	B	R6年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「思考・判断・表現」における、同一集団比較において、R5年度の結果を上回ることができた。 R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は93%であり、昨年度の結果より上昇した。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）